



## 商学研究科修了生からのメッセージ

企業税務コンサルタント 工藤 晴也さん PwC税理士法人



### 一大学院に進学した理由を教えてください。

税理士試験の税法科目免除を受けたいと考えたことがきっかけで、大学院への進学を志すようになりました。大学院では、租税法の幅広い分野に触れられるだけでなく、制度の成り立ちや理論的な背景を深く理解する機会があります。こうした高度な専門知識や応用力を身につけることで、将来の実務において質の高い判断ができると考えました。単なる資格取得のためだけでなく、専門家としての基盤を築くとして大学院を選びました。

### 一関西大学大学院商学研究科を選んだ理由を教えてください。

大学院への進学を志していた当時、私が所属していた学部である関西大学商学部の大学院にTASプログラムが新たに創設されたことを知りました。TASプログラムは、法学・経済学・会計学の様々な視点から税務について学修することができ、税理士の方の講義や税理士法人でのインターンシップといったとても魅力的なカリキュラムがあることから、私にとってとても心強いサポートになると感じました。

### 一大学院での研究テーマとその概要を教えてください。

研究テーマは、外国子会社合算税制の適用除外要件を巡るオーバー・インクルージョン問題です。外国子会社合算税制には、その趣旨・目的と適用除外要件の規定内容との齟齬により、経済合理性を有する事業を営む企業に対しても、合算課税が適用されるというオーバー・インクルージョン問題が内在していると考えています。その問題解決に向けて、他の制度との関係性を考慮しつつ、外国子会社合算税制の存在意義に即した今日的なあり方を検討しました。

### 一大学院で研究を進める上で楽しかったことは何ですか。

税理士として活躍するため、大学院で勉強をしていく中での自分自身の課題は、授業内での発表や課題において求められるクオリティにいかに対応して自分の成長に繋げるかという点でした。入学当初は、租税法という膨大かつ複雑な体系に圧倒されることもありましたが、ただ、時間をかけてでも多くの論文や書籍を読んで分析するという習慣を身につけ、日々の研究に取り組むことで様々な見解からの気づきや学びを得ることができました。次第に自分の中でも根拠を持った考察をすることができるようになり、先生をはじめ、周りの仲間たちとの議論に繋がれたときは、充実感があり、楽しかったことを覚えています。

### 一関西大学大学院商学研究科に進学してよかったこと、身につけたことは何ですか。

関西大学大学院では、授業を通して法人税法や所得税法、国際課税の分野など幅広く租税法について勉強をすることができました。また、同じく税理士資格の取得を志す多くの仲間と出会い、議論を通じてそれぞれの考え方を共有することで相乗効果生まれ、楽しく租税法について学ぶことができました。具体的には、規定を読み解く力、判例に触れながら規定の落とし穴に気づく力、規定が導入された背景や改正された理由等を理解し、根拠をもって自身の考えを述べる力といった実践的な力が身につきました。

### 一大学院での研究が、現在の仕事にどのように活かされていますか。

現在は企業の申告業務や税務コンサルティング業務といった様々な業務に従事していますが、複雑な税制を正確に読み解き、根拠をもって提案する力は日々の業務で不可欠なものです。大学院での経験は単なる知識の習得にとどまらず、実務に直結する思考力と自信を与えてくれ、現在の仕事に活かされていると感じます。また、難題に直面した際も、研究で培った粘り強く分析する姿勢が問題解決に大きく役立っています。

### 一大学院進学のために、どのような受験対策や事前準備をされましたか。

特に、出身学部と大学院での専門分野が異なっている場合、どのような点に注意して受験準備しましたか。

私は、試験科目の一つである会計学については、大学時代に商学部で学んだ知識や、税理士試験で培った会計科目の知識を活かして対応しました。既に基礎が身についていた分野は、過去の学習内容を整理し直し、試験で問われやすい論点を重点的に復習することで効率的に準備できたと思います。一方で、税制論については、税に関する知識が乏しかったため、まずは参考図書を複数用意し、基本的な制度や考え方を理解することから始めました。特に、分からない論点や専門用語を一つずつ丁寧に調べ、ノートにまとめながら知識を積み上げるように心がけました。時間はかかりましたが、基礎を固めることで応用問題にも対応できるようになったと感じています。異なる分野に挑戦する際は、分からないことをそのままにしないことが重要だと思います。自分の強みを活かしつつ、弱点を補うために計画的に学習を進めることが、合格への近道だと実感しました。

### 一TASプログラムに進学を考えている方へのメッセージをお願いします。

TASプログラムでは、同じ目標を持つ仲間や専門性の高い教授陣との議論を通して、多角的な視点を身につけることができます。大学院での研究は想像以上に大変で、学びの過程は決して楽ではありませんが、その分、努力しただけ確かな成果が得られ、充実した時間を過ごせます。努力した先には、専門家としての大きな成長と自信が待っています。ご自身の可能性を広げる選択肢としておすすめします。



## TAS シンポジウムを開催

演題：KPIと資本コストの理論と実践

講師：石川博行先生(大阪公立大学経営学研究所グローバルビジネス専攻教授、会計学) 共催：商学研究科・商学会

日時：2025年11月26日(水) 10:40-12:10 場所：関西大学千里山キャンパス第2学舎E301教室 参加者数：約90名



この特別セミナーは、TASプログラムの宣伝を兼ねて、将来、税理士など税務のプロフェッショナルを目指そうとする学生を対象にして、税務・会計を仕事にするこの魅力を伝えたり、「よし!やってみよう!」というきっかけになることを期待して、この分野の第一線の研究者を講師としてお招きして、開催しています。石川先生は、主要著書に、『連結会計情報と株価形成』(千倉書房、2000年)、『配当政策の実証分析』(中央経済社、2007年、日経・経済図書文化賞)、『株価を動かす配当政策—コロポーション効果の実証分析』(中央経済社、2010年)、『会社を伸ばす株主還元』(中央経済社、2019年)、『財務分析(基礎)』(証券アナリスト第1次レベル通信教育講座テキスト)などがあります。今回の講演では、『KPIと資本コストの理論と実践』と題して、「(第1部)KPIと資本コストのイントロダクション」、「(第2部)KPIと資本コストの考え方と実践」と2部構成でお話をいただきました。今、世の中でKPIと資本コストがなぜ注目されているのか。また、資本コストの考え方を利用して、何ができるのか。KPI、残余価値モデル、資本資産価格形成モデル(CAPM)、資本コスト、ROE、ROICなど、たくさんキーワードが登場しましたが、事例を使いながら、初学者にもわかりやすくご説明をいただきました。このセミナーは、年1回のペースで毎年12月ごろに開催します。今回参加できなかった皆さんも、来年度の開催を楽しみにお待ちください。

## TAS プログラムとは

### TAS プログラムの目的

タックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラム(TASプログラム)は、税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的として、2022年4月より、商学研究科高度専門職養成コースに導入されました。税は、企業にとってコストであり、経営上の意思決定に影響を与えるため、将来を見据えた税務・会計の戦略的な視点が求められます。TASプログラムでは、科目学修を通じて、税理士、または企業の税務・財務部門で業務を適切に行い得る高度な専門知識と応用能力を有する税務・企業財務・会計のスペシャリストとしての能力を育成します。

### カリキュラムの特徴

TASプログラムのカリキュラムには、つぎの3つの特徴があります。

- 1) **税理士の資格取得をサポート** —— 税理士試験科目の免除申請に対応した特別なカリキュラムを用意
- 2) **学際的研究** —— 法学・経済学・会計学的アプローチから税務について学修
- 3) **理論と実践** —— アカデミック科目のほかに、プログラム関連科目として、税理士や公認会計士が担当する実務家教員科目、税理士法人などでのビジネス・インターンシップを設置

### 履修モデルのイメージ

1年目にベーシック科目・メソッド科目を中心に履修するとともに、各専門科目および演習を通じて、研究の基礎力を養う。2年目は、課題研究指導を通じて研究を深化させ、課題研究論文を執筆・完成させる。プログラム関連科目の必要単位を修得した場合、「タックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラム修了証」を授与する。



## TASプログラムと税理士

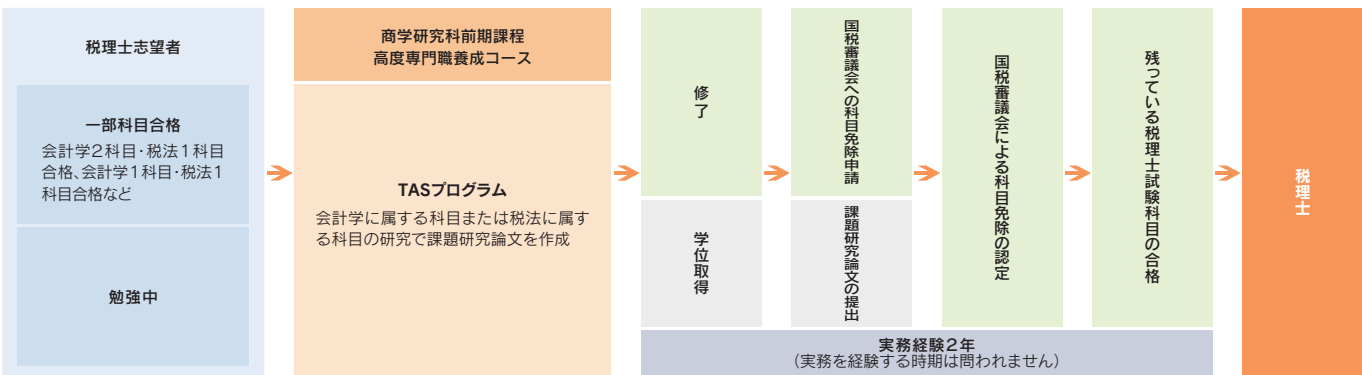
### 税理士—企業や個人の納税をサポートする社会貢献度の高い資格

税理士は、税と会計の専門家であり、税務に関わる業務を行える唯一のプロフェッショナルです。税務代理・税務書類の作成・税務相談は、税理士にのみ認められた業務です。そのほか、財務諸表や帳簿の作成といった会計業務や経営コンサルタント業務なども行っています。また、租税に関する訴訟の補佐人や、会社の役員として財務諸表を作成する会計参与に就くことができます。

### TASプログラムと税理士への道

税理士試験は、税法に属する科目のうち3科目、会計に属する科目の2科目で行われます。科目合格制のため、一度に5科目を受験する必要はなく、1科目ずつ受験することが可能です。この過程で、TASプログラムを活用することができます。

例えば、税法1科目の試験合格者が、税法に属する科目の研究により学位を取得し、課題研究論文を国税審議会に提出した場合、認定されると、残りの税法2科目に合格したものとみなされ、当該科目の試験が免除されます。



→ 詳細はTASプログラムのHPをご確認ください。 <https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/tasprogram> ※表紙にQRコードを記載しています

# 2026 TAX&ACCOUNTING STRATEGY PROGRAM

タックス&アカウンティング・ストラテジー・プログラム

## 関西大学大学院商学研究科

関西大学大学院 商学研究科 千里山キャンパス

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

**TEL 06-6368-1121** (大代表)

<https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/tasprogram>



# TAS PROGRAM DISCUSSION

## TASプログラム 座談会

### 専門知識×応用力で税務のスペシャリストに!

税務および会計に関する高度専門職業人の養成を目的とするTASプログラム。税理士志望や、企業の税務・管理部門での活躍をめざす学生を対象としています。税理士試験科目の免除申請に対応したカリキュラムで資格取得をサポートしつつ、法学・経済学・会計学など多様なアプローチから税務について学修し、実践力がつく点が特徴です。TASプログラムの担当先生方と履修生にお集まりいただき、関西大学大学院商学研究科の魅力や研究の面白さ、後輩へのメッセージなどについて聞きました。

#### ■ 関西大学大学院 商学研究科 博士課程 前期課程 1回生



朴賢志さん 谷川 明生さん 畑中 彩希さん 富麻 藍さん 有本 咲季さん 西本 大輝さん 三木 翔太さん 木佐貫 達也さん 佐野 康崇さん 今井 勇輝さん

#### ■ 関西大学大学院 商学研究科



石田 和之 教授  
担当: 租税論



齊野 純子 教授  
担当: 会計制度論



辻 美枝 教授  
担当: 租税法

が、専門学校の勉強だけでは、教わった解釈のみに固執しがちです。税法のみならず、他分野の授業もあり、様々な勉強ができる環境にも魅力を感じています。**三木さん**: 私は租税法について体系的に学びたいと考えていました。ここで学ぶことが将来税理士として働く際に自分の武器になると確信しています。また、将来の独立を視野に入れた際、経営的な知識も身につけられると考えました。**佐野さん**: 私は大学時代から税理士を目指していて、とにかく早く資格を取りたいと思っていました。ただ、実際に4回生になって調べてみると、税法免除が取れるだけでなく、「こんなにたくさん学べる場所なんだ」と知ったことが進学を決め手になりました。

**富麻さん**: 4回生の時に租税法ゼミに参加したことがきっかけです。私は経営学部出身だったので、当時は租税法の知識が全くありませんでした。2年間かけてじっくり学べると思い、進学しました。

#### 関西大学大学院に進学した理由

**齊野教授**: 数ある大学院の中で、関西大学大学院に進学する決め手となったのは何かを教えてください。

**西本さん**: 私は学部時代も関西大学に通っていました。学部の頃に辻先生、石田先生、齊野先生の授業を受け、TASプログラムについても教えていただきました。進学する大学院は指導教員が自分に合う大学院を選ぶべきだと感じ、辻先生、石田先



生、齊野先生がいらっしゃるこの商学研究科で学びたいと思いました。

**谷川さん**: 私は関大経済学部出身で、もともと関大が大好きなんです。社会人を10年以上経験する間もずっと大学院が気になっていました。そんな時にTASプログラムを知り、租税法に特化した学習ができることや、会計学の専門知識や実務を学べるインターンシップが組み込まれている点に強い魅力を感じて選びました。

**今井さん**: 私は歴代のパンフレットで「在学生の声」を読みました。実際に学んでいる人たちのリアルな声はとても大事だと思います。体系的に学べる環境や、試験勉強の孤独感とは違う、仲間と切磋琢磨できる雰囲気にも惹かれました。

**朴さん**: 私は他大学の経済学部出身です。税理士を目指すプログラムは他にもありましたが、ここまで全面的に「税理士養成」を強調しているところは他にありませんでした。

**木佐貫さん**: 3つ理由がありました。1つ目は環境です。カリキュラムは、著名な教授の講義が組み込まれていて質が高く、かつ、設備も充実しており研究にコミットできる環境であること。大学受験の際は関大に落ちてしまったので、リベンジしたかったこと。最後に、奨学金制度が充実していること。

#### 研究テーマと研究の楽しさ

**齊野教授**: 現在取り組んでいる研究テーマと、どのようなときに研究が楽しいと感じたか、教えてください。

**佐野さん**: 研究テーマは検討中ですが、所得税のギャブルに対する課税に関心があります。自分の興味があることと学問が結びつくのは面白いですね。院生活では、優しい仲間と囲まれて気持ち共有できる時間が楽しいです。

**有本さん**: 私は「法人税法における損失と損害賠償請求権の帰属時期」について研究を進めています。50年以上前から議論され続けているテーマですが、今なお議論が継続している過程を知るのが面白いです。昔の人の知恵を借りながら、現代においてどう対応していくべきかを考えることに学術的な魅力を感じます。

**富麻さん**: 私は「デジタルノマドワーカーの課税方法(PE課税)」について検討しています。もともと海外の税制に興味があ

ったので、他国の歴史や文化を紐解きながら税のあり方を調べるのが楽しいです。

**木佐貫さん**: 私は「適格合併時における欠損金の引き継ぎ」がテーマです。研究を進めると当初の考えとは違った様々な論点が見えてきました。自身の研究をどの方向に伸ばしていくか、自分で研究の方向性を決めていく過程に、面白さを感じます。

**三木さん**: 私は「違法な支出(架空経費を計上するための協力金など)を損金に算入できるか」というテーマです。先行研究や判例を学ぶことで、宅建法など他法令との関連や、脱税協力金のような違法支出を損金に算入できるか否かといった法人税法上の論点を掘り下げるのに、やりがいを感じます。

#### TASプログラムの魅力

**齊野教授**: これから進学を考える後輩たちへ、TASで学ぶ魅力を伝えてください。

**今井さん**: 一番は「みんなで学べること」です。一人だと考えが偏りますが、ここは「十人十色」。仲間の意見を聞くことで多角的な視点が得られます。



**谷川さん**: 社会人で働いている時は地道に勉強していましたが、ここでは堂々と仲間と切磋琢磨できます。他大学院や他研究科との交流もあり、同じ目標を持つ仲間がいると感じられる環境が一番の魅力です。

**朴さん**: 図書館が充実していることです。また、事業会社に勤めている方が講義で実務の話をしてくださるのもTASならではの良さです。

**畑中さん**: 院生には自分専用の机があり、勉強しやすい環境が整っています。これは他の大学院ではなかなか見られません。また、他大学と一緒に発表をする機会もあり、関大生以外の視点を学べるのも魅力です。研究室や休憩室には歴代の先輩が残してくれた資料もあり、助けられています。

**西本さん**: 他大学に比べて比較的少人数制なので、先生から質の高い指導を受けられます。国際課税に詳しい先生もいらっしやいますし、学生同士や先生との距離が近く、辛い時も周りと相談して乗り切れます。

#### 進学に向けた準備とアドバイス

**齊野教授**: 進学前に準備したことや苦労したことなど、後輩に

アドバイスをお願いします。

**有本さん**: 商学部の指定図書が5冊ありましたが、最初は理解できませんでした。そこで、まずは学部生向けの初歩的な本や一般的なビジネス書を読み、知識の土台を作ってから指定図書に戻りました。過去問を取り寄せ、重要論点をPCでまとめて対策を行いました。

**畑中さん**: 私も指定図書は難しく感じました。ネットで税法初心者でもわかりやすい本を探して読んだり、税法を全く知らない友達に自分が読んだ内容を説明してみたりしました。意外な視点から質問が飛んでくるので、説明できない部分は理解できていないと気づかされました。入試対策としては、自分に合う1冊を決めて徹底的にやるのが良いと思います。

**三木さん**: 私は3冊ほど借りて読み比べ、自分が一番分かりやすいと感じた1冊に決めました。その本をインプットの基礎として、30回くらいは読み込みました。

**佐野さん**: 指定図書が難しいと感じたので、まずは分かりやすい解説書を買って読み、知識を得てから指定図書に臨みました。また、過去問を解くことで傾向と対策を練りました。

**富麻さん**: 指定図書5冊を期限内に読み切るのは難しいと考え、一番シンプルな本をひたすら読み込みました。そして過去問からどのような問題が派生するかを分析し、事例を自分で考えてトレーニングしました。

#### 後輩へのメッセージ

**齊野教授**: 最後にTASプログラムを考える後輩たちへメッセ

ージをお願いします。

**今井さん**: 入る前は不安もありましたが、学生同士の距離も近く、すぐに友達もできます。不安があっても安心して飛び込んでください。

**朴さん**: 税理士試験が終わっていない方でも、試験勉強と研究は両立可能です。TASプログラムでは、コミュニケーション力やプレゼンテーション力など、税理士として必要な総合力を育めます。

**西本さん**: 受験勉強では取り組めないような裁判例も深く学べます。以前は実際の仕事内容がイメージできていませんでしたが、進学してからよく分かるようになりました。

**木佐貫さん**: 入学前の独学での勉強に比べて、この1年は質と密度の高い勉強ができました。ここで学んだ内容は必ず将来の実務に役立つと感じています。

**谷川さん**: 私は社会人を経て、子育てをしながら保育園の送り迎えをしつつ通っています。世代はひとまわり違いますが、皆で楽しく過ごせています。

**石田教授**: 今日は、皆さんの率直な思いを聞くことができました。税理士試験の可否発表も出たところだと思います。これからも頑張ってください。

**辻教授**: 授業とは違う皆さんの思いが聞けて良かったです。研究は苦しい時もありますが、それを乗り越える楽しさもあります。皆さんのさらなる成長を楽しみにしています。

**齊野教授**: 皆さんの熱意に私自身も刺激を受けました。最後は自分を信じるしかありません。今の気持ちを糧に、自分の力を信じて進んでください。本日はありがとうございました。

